

桂川人

けいせんのひと

― 今回の桂川人 ― 「培った技術と感性でガラス細工の美を追求する匠」

小林 繁夫さん (七二) 〓 桂川町笹尾二区



▲ 「自分の思うように形をなしてくれるガラス細工をしている時が一番楽しい。」と語る小林さん。

ダーメイドの特別なガラス器具の制作に携わり、長い年月で培われた技術と手にした資格は西日本でも屈指のガラス職人だそうです。

ガラス細工について問う

これらガラス細工を本格的に始められたのは、ごく最近とのこと。しかし、様々な形や機能を持ったガラス器具の注文に応えるといった仕事から、技術はもとより感性も要求されるような物を作り続ける中で、「こんなふうにしたらより美しくなるなあ。」などいつも考えていたそうです。

『どんな物でもできますか?』との問いに「ガラスで作ると見栄えがする物としない物がありますが、大抵の物は作ることができます。設計図や見本? 見ないですね。一度見たり、想像してイメージでよりガラスが美しく映えるようにと考え作っていますがまだまだです。」と、はにかんだ顔で応えられました。

小林さんにとってのガラスとは?

『小林さんにとってガラスとは?』と尋ねると、仕事なので職場ではガラスに触れなかった日はなく、仕事が休みの日は、北九州市にある体験型施設のガラス細工コーナーで、自分の好きなように自由に作るのが楽しくて毎回通っていたため、ほぼ365

今 回の桂川人、小林繁夫さんは、15歳で小倉硝子工業(昭和58年に誘致企業として吉隈の天道工業団地へ進出)に就職。途中、株式会社ビードレックスに変わり昨年退職するまで55年間、日々ガラスとともに歩んでこられました。

株式会社ビードレックスは、医療関連、薬品関連、食品関連、環境関連、研究・実験、化学工業などあらゆるガラス製の理化学実験器具を製造販売している会社です。私たちが小中学校などの理科の実験で目にしたビーカー、試験管やフラスコといったものなどです。

小林さんは、それらの中でも機械では作れないオー



▲ ワインボトルのような瓶の中で停車中のSL機関車。



▲ クリスマス時期、シャンパンなどがより美味しく味わえそうなトナカイグラスの制作中(左)と完成品(右)。